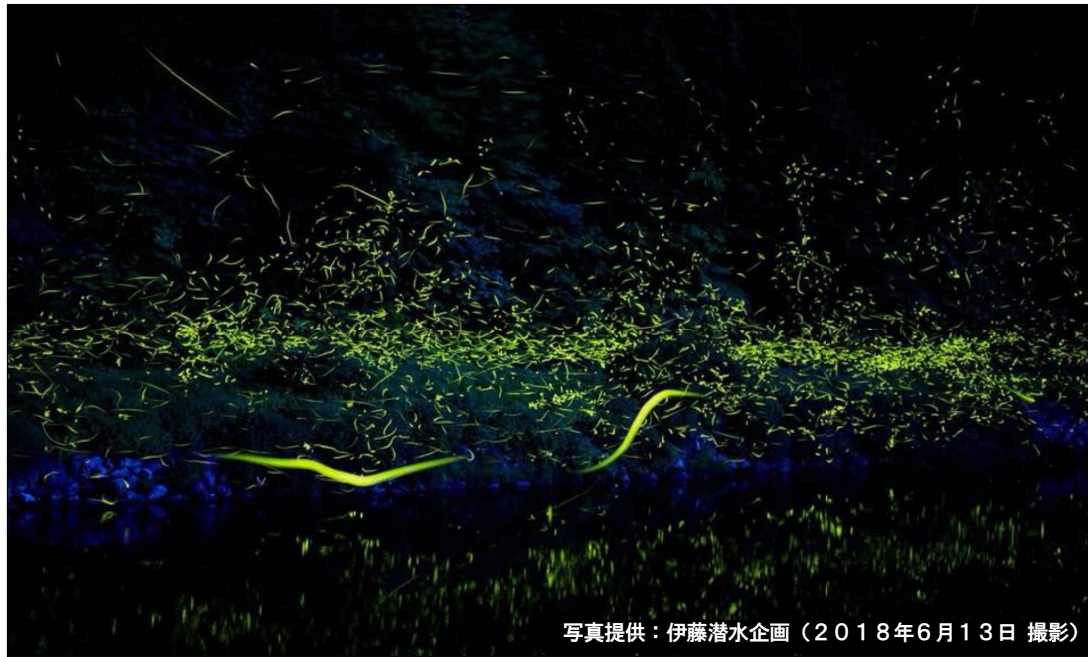


和良の郷だより

「夏夜のきらめき」ほたるのイベント
 地上の天の川を愛でる



写真提供：伊藤潜水企画（2018年6月13日撮影）

盛夏号
 7月1日号
 和良おこし協議会発行



「春はあけぼの」で始まるかの有名な「枕草子」。清少納言は夏は夜が良いと詠います。「夏は夜。月のころはさらなり、闇

もなほ、ほたるの多く飛びちがひたる。また、ただ一つ二つなど、ほのかにうち光りて行くもをかし。雨など降るもをかし。」（夏は夜がいい。月が輝いている満月のころは言うまでもなく、月が出ていない新月のときでも、ほたるが飛びかっている光景がいい。また、ほたるが一匹二匹と、ほかに光って飛んでいくのも趣きがある。雨など降るのも趣きがある。）

漆黒の闇夜に蛍が舞う姿を美しく幻想的であると感ずる心、四季の風情を愛でる心は平安の時代から遥かな時を超えて、今も日本人である私たちに受け継がれているように感じます。癒しのひとときを求めて、遠方では関西圏や関東圏、地域内外を問わず多くの方が蛍観賞に訪れて下さいました。

このように誰もが、蛍を楽しんでいただけのもの、総勢90名を超える有志のボランティアスタッフの方々のご協力があればこそです。来場された方からも、「和良の皆さんのおかげで今年も蛍を見ることが出来ました。ご苦勞様です。」とのお声をたくさん頂戴いたしました。夜毎に交代で案内所や駐車場係、本部係として来場される方が安全に蛍観賞を楽しめるように長期に渡り運営を支えていただきました。改めて、皆様のご協力に感謝いたします。どうもありがとうございます。



本部でテキパキと大活躍してくれた公民館ジュニアサポーターの皆さん



宮地地区子供会は蛍観賞会を企画 解説付きで親子で蛍観賞を楽しんだ



鮎釣りの名人に教わる「鮎釣り教室」
 体験型ツアーリズム参加者募集中

今年も昨年に引き続き、和良川漁業協同組合のご協力をいただき、鮎釣り教室を開催します。

昨年は鮎釣りを初めてされる方ばかり20数名ご参加いただいたのですが、小学校1年生のお子さんも、女性も、釣り好きなご年配の方も全員が釣果を上げることが出来、とても楽しんで頂けたようです。講師陣の皆さんの教え方も優しく親切だと大好評でした。鮎釣りは難しそうとか、敷居が高いと思っっている方、この機会に習ってみませんか？日本一と名高い和良川ですが、自分で釣り上げた和良鮎はきつとより一層おいしく感じられるのではないのでしょうか。

日時：7月24日（火曜日）～7月26日（木曜日）
 時間：7時～10時

10時以降は自由に釣りを楽しみ下さい
 17時までにご道員様の返却をお願いします

集合：わらおこし 和良町下洞5554
 体験料：大人 6000円
 こども 4000円（中学生以下）

日釣り券代、おとり鮎代、
 道具レンタル代、講習代を含む

主催：和良おこし協議会
 講師：和良川漁業協同組合（名人級組合員）

問合せ・申し込み先：和良おこし協議会
 和良町下洞554 ☎0575(77)2277

「暮らしのパン」
— 地域のひととの繋がりを大切に —

和良町下土京にパン屋さんが開店しました。お店を営んでいるのは、移住してきた磯村夫妻です。ご夫妻が移住相談にと和良おこし協議会を訪れたのは平成28年10月でした。現在の店舗兼お住まいのお家も、ちょうどその頃に情報をお預かりした時でした。ご相談を受けてから移住が決まるまで、まるでお家が磯村さんたちを待っていたかのように進んだ印象があります。また当時ご夫妻は鳥取にお住まいで、鳥取県中部地震の頃で、ずいぶん心配されていたのも覚えていいます。ですが、それよりおふたりの笑顔がずいぶん印象的だったのを覚えていいます。「移住して、パン屋さんをやりたいです。」と、笑顔でお話しをされました。

移住されてからは、集落でパン作り教室を開催し、サロンにはパンの提供もしていただいております。また、和良おこし協議会の仲間として参加もしていただいております。和良の暮らしの中にあるパンをつくって行きたいと語られるご夫妻です。岐阜県産の小麦と自家製酵母、自作の薪窯で焼くパンは、おいしさに磯村さんの想いがぎゅっしり詰まっているかのようなパンです。

普段から地域のひととの繋がりを大切に思っているご夫妻ですが、ご夫婦で営まれる「いそぼん」も同様に地域で必要とされるようなパン屋さんになりたいとお話しをされました。自作の窯には「和良美林の会」から薪を購入して使っています。他には、たとえば遊休農地での小麦づくりをお願いしたり、地域で採れた果実から酵母をつくったりと、原材料を地元からすべて調達する事も目標とされています。もちろん自家製酵母を育てる和良の空気と、和良の水も重要な要素だそうです。

「いそぼん」さんの営業は日曜日、木曜日の午前10時から、売



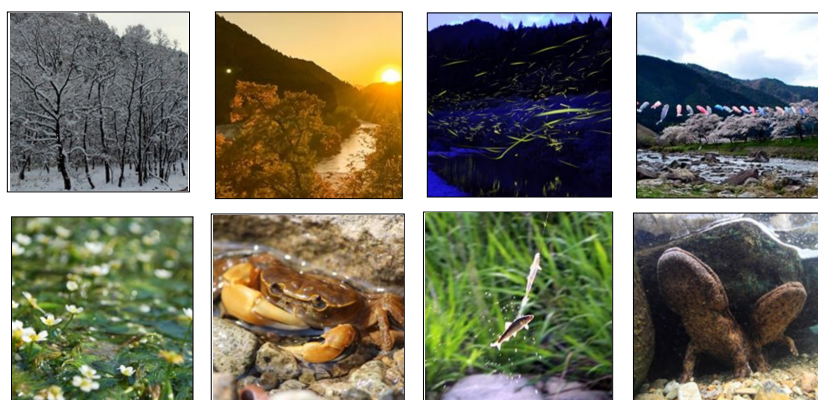
「わらのたから」 加藤真司
— 岐阜新聞「素描」連載より抜粋 —



郡上市和良町を訪れた人に「ここは水もきれいで空気がおいしいし、自然がいっぱいで良いところですね」と褒めていただきます。そんな場所は郡上市や日本中のどこにもあるでしょう。ですが、そうやって古里を褒めてもらえるのは嬉しいことです。和良に住む人は、嬉しくて他にも自慢したくなるのが沢山あります。

まずは、「和良鮎」。高知県では、日本全国から集まった鮎の味を審査して、おいしい鮎が育った河川を選ぶ「清流めぐり利き鮎会」（高知県友釣り連盟主催）が開催されています。この会では、毎年50を超える河川から自慢の鮎が届けられ、和良川はこれまでに、2002年、09年、14年とグランプリを3度受賞し、準グランプリを5度いただきました。夏の和良川は全国から訪れる釣り人でにぎわい、秋には和良鮎まつりが開催され、おいしい鮎を求めて多くの人が訪れます。

まず。初夏にはゲンジボタルの乱舞する姿を見ようと、和良町の人口を超える人たちが訪れます。他にも全国から、また海外から、和良川に生息する特別天然記念物であるオオサンショウウオの観察や撮影にも多くの人が来られます。里の中心部を流れる和良川は、石灰質を含み、上流部であっても水温は高めで安定し、多くの生物を育てます。和良川と共に生活してきた和良の住民にとって、今まで当たり前のように接してきた事が、広く世間に知られるようになり、寂しいような嬉しいような複雑な気持ちもあります。本当は教えたくない秘密なのかもしれないませんが、つい自慢したくなる。そんな「わらのたから」を大切にしています。



和良町の人口 平成30年6月1日現在

